

## 世界史 B 問題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題用紙は 13 ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。
5. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
6. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれも HB・黒)で記入のこと。
7. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
8. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
9. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。ただし、この問題用紙は、必ず持ち帰ること。
10. 試験時間は 60 分である。
11. マーク記入例

良い例	悪い例
	

〔 I 〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

唐朝から五代を経て宋朝までの時期、中国周辺では、勢力の交替が多くみられた。東アジア北方では契丹人の国家の遼が 926 年に渤海を滅ぼして台頭した。朝鮮では 935 年、高麗が新羅を滅ぼし、雲南では南詔滅亡後、しばらくして白蛮出身の段氏によって  が建てられた。ベトナム北部では、ベトナムをはじめめて長期にわたり支配した王朝である李朝大越国が建てられ、都を現在のハノイにあたる  に置いた。李朝の後、1225 年陳朝に王朝が交替し、この王朝は 3 度にわたりモンゴルおよび元の侵攻を防いだ。遼は 1125 年に  が建てた金に滅ぼされ、金は 1127 年に北宋を滅ぼしたが、1234 年モンゴルと南宋の攻撃を受けて滅んだ。ビルマでは、11 世紀中葉に、エーヤワディー川(イラワディ川)中流域で、ビルマ最初の統一王朝であるパガン朝が成立した。

元朝の後に中国を統治した明朝は、北方のモンゴル系諸部族の侵入と、中国東南沿海部の倭寇の活動に苦しんだ。この王朝の外憂の状況は漢字四字で  と呼ばれている。北方では、1449 年、モンゴルのエセン率いるオイラトにより、土木堡の地で明朝皇帝が囚われる事件があった。また、倭寇に苦しんだ明朝は民間の対外貿易を禁止する海禁を行うが、その一方で中国皇帝からの、周辺諸国への恩恵的な貿易システムを建前とする朝貢貿易は盛んに行われ、日本や琉球を含む多くの国家がこの貿易システムに参加した。

東南アジアでは、マレー半島南西岸に建てられたマラッカ王国が、ムスリム商人と中国商人のネットワークを結びつける国際貿易の港市として繁栄した。タイでは  朝が、15 世紀にカンボジアのアンコール朝を滅ぼし、北部のスコタイ朝を併合して、その後 18 世紀まで存続した。

問 1 文中の空欄①～⑤に入るもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問 2 文中の下線部㉗～㉛に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、李朝・陳朝の2つの王朝はベトナム中部のチャム人の王国と抗争している。北宋の時代にこのチャム人の王国から取り寄せられて、長江下流域の浙江・江蘇で栽培された日照りに強い早稲種の稲の名は何か。

(イ) 下線部㉘に関して、北宋は1126年に金軍に都城の開封を占領され、翌1127年には、徽宗や欽宗など3000人余りが囚われて金に連行されて滅びた。この事件の名は何か。

(ウ) 下線部㉙に関して、この王朝は、大乘仏教から「小乗仏教」と蔑称された仏教をスリランカから受容している。「小乗仏教」という名ではない、この仏教の名称は何か。

(エ) 下線部㉚に関して、この事件で囚われた明朝皇帝は誰か。

(オ) 下線部㉛に関して、この王国は、明朝の永楽帝によって7回にわたり派遣された南海諸国遠征の大艦隊の基地ともなったが、この大艦隊を率いたイスラーム教徒の宦官は誰か。

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

ナポレオン＝ボナパルトは、革命暦8年ブリュメール18日(1799年11月9日)のクーデタにより統領政府を樹立し、自ら第一統領の座に就いた。第一統領となった彼は、行政の中央集権化、民法典をはじめとする法典の整備、公教育制度の確立、フランス銀行の設立など、後のフランスの礎となる国内改革を次々と行った。さらに、それまで敵対を続けていたイギリスやオーストリアやロシアと講和し、革命中に途絶えていたカトリック教会との関係も、当時の教皇である⑦との間に宗教協約を締結することで修復した。

1804年、ナポレオン＝ボナパルトはナポレオン1世として皇帝の座に就き、第一帝政を開始した。皇帝ナポレオン1世の戴冠式はパリのノートルダム大聖堂で行われたが、この時の様子は新古典主義を代表する画家である②によって描かれ、その絵画は『ナポレオンの戴冠式』と呼ばれルーブル美術館に収蔵されている。この絵画には、最初の妻であるジョゼフィーヌに皇后としての冠を自ら授ける④ナポレオンの姿が描かれている。

皇帝となったナポレオン1世は、フランスの勢力を拡大しようとヨーロッパ各国への進撃を開始した。しかし、1805年、フランス・スペインの連合艦隊は、トラファルガー沖の海戦で、③提督が率いるイギリス海軍に壊滅させられてしまった。この敗戦によりイギリスへの侵攻は無理であると悟ったナポレオン1世は、オーストリアとロシアへの勢力拡大を目論み、両国の連合軍をアウステルリッツの三帝会戦で破ることに成功した。1806年、彼は、バイエルンなど西南ドイツ諸国にライン同盟を結成させ自らの庇護下に置いた。⑤ライン同盟結成後の1807年には、ティルジット条約により、ロシアとプロイセンとの間に講和を成し遂げ、フランスはヨーロッパ大陸のほぼ全域を支配下に置くことになった。ナポレオンの支配に対してスペインでは抵抗運動が起こり、民衆がゲリラ戦④を用いてフランス軍を苦しめた。

ナポレオン1世の勢いに陰りが見えたのは、1812年、大陸封鎖令を無視してイギリスとの通商を再開したロシアに対する軍事遠征に失敗した頃からである。このロシア遠征の失敗を見たヨーロッパ各国はナポレオン1世に反旗を翻すよう

になった。1813年には、プロイセン・ロシア・オーストリア・スウェーデン連合軍が現在のドイツ東部の ④ で行われた戦いでフランス軍を打ち負かし、翌1814年にはパリが陥落し、ナポレオン1世は退位させられた。ナポレオンが退位した後、ルイ18世が亡命先から帰国し王位に就いたことで一時的にブルボン朝が復活したが、1815年にはナポレオンがパリに戻り皇帝の座を取り戻した。しかし、復位して間もなく、ナポレオン率いるフランス軍は、現在のベルギーに位置する ⑤ でイギリス・プロイセン・オランダ連合軍と戦って敗れ、ナポレオンは南大西洋の島に流刑となりそこで没した。

問1 文中の空欄①～⑤に入るもっとも適切と思われる語句を解答欄に記入しなさい。

問2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は解答欄に記入しなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、1802年、イギリスとフランスの間で講和条約が締結され、1793年から続いていたイギリス・フランス間の戦争状態と第2回対仏大同盟が解消された。この講和条約が締結されたフランスの都市はどこか。

(イ) 下線部㉘に関して、最初の妻ジョゼフィーヌとの間に後継ぎが誕生しなかったナポレオン1世は、ジョゼフィーヌと離婚しオーストリア皇女と再婚した。このナポレオン1世が再婚したオーストリア皇女は誰か。

(ウ) 下線部㉙に関して、ティルジット条約により、ナポレオン1世はプロイセンに対して広大な領土の割譲を求めた。この時、プロイセンが失ったポーランド地方には、ナポレオン1世により国が作られ彼の庇護下に置かれた。この国の名前を何というか。

(エ) 下線部㊦に関して、ナポレオン軍により銃殺されるマドリード市民の様子を描いた『マドリード，1808年5月3日』と題された絵画を制作したスペイン人画家で、スペイン王家の宮廷画家としても活躍したのは誰か。

(オ) 下線部㊧に関して、1814年に退位させられたナポレオン1世は、イタリア半島の西に位置する地中海の小さな島に流された。このナポレオン1世の流刑地である島の名前は何か。



〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

古代インドにおいて初めて統一国家が形成されたのは前4世紀頃である。ナンダ朝を倒して、① を首都として建国されたマウリヤ朝がそれである。その後第3代の王であるアショーカ王の時代に南部を除くインドの統一に成功した。<sup>⑦</sup> アショーカ王は仏教に帰依し、第3回仏典結集を行い、王子であった② をスリランカに派遣して仏教布教活動を行わせた。一方でアショーカ王は、法(ダルマ)の下での統治を理想とし、各地にアショーカ王の詔勅を刻んだ磨崖碑・石柱碑を建立した。しかしながら、マウリヤ朝はその後衰退し、前2世紀に滅亡した。

4世紀から6世紀半ばまでインド大陸を統治したグプタ朝において、インド古典文化は黄金期を迎えることとなった。グプタ朝は、第3代の王③ が北インドを統一し、経済的にも繁栄した。そこでは特に、サンスクリット語で書かれた、主にヒンドゥー教系の文学である、サンスクリット文学が最盛期を迎えた。<sup>④</sup> また芸術においては、アジャンター石窟寺院の仏像や壁画に代表され、ガンダーラ美術と対比される、グプタ様式といわれる純インド的な美術様式が完成された。

その後グプタ朝は、騎馬遊牧民であるエフタルの侵入などにより弱体化し、6世紀半ばに滅亡した。<sup>⑤</sup> その後の混乱を経て、ハルシャ王が北インドを再統一して④ 朝を建てた。ハルシャ王は、唐から訪れた玄奘を厚遇し、玄奘はインド東部に建てられた仏教学院・大学であるナーランダール僧院で学び、帰国後は、仏典の漢訳を行った。しかし④ 朝は、ハルシャ王の死後崩壊し、北インドはヒンドゥー諸侯が建てた小王国の分立状態となり、この状態は13世紀まで続いた。

一方、西北インドでは、前2世紀、アム川流域に成立したギリシア系の王国であるバクトリアが、マウリア朝の衰退に乗じて西北インドに侵入した。バクトリアは、ガンダーラ美術に影響を与えた。その後1世紀にイラン系のクシャーン人がクシャーン朝を建てた。そして2世紀のカニシカ王の時代にクシャーン朝は全盛期を迎えた。カニシカ王は仏教を保護し、第4回仏典結集を行った。これらの

時代に西北インド地域で仏教寺院などが数多く建設された。7世紀以降この地域はイスラム化されて現在に至っているが、今もインドおよびアフガニスタンに多くの仏教遺跡が存在している。<sup>⑤</sup>

他方スリランカでは、前5世紀頃にアーリヤ系の ⑤ 人がインド北西部からスリランカに移住して ⑤ 王国を建国した。この王国では ② による布教活動以降、仏教が広く信仰された。この王国は19世紀まで存続し、ヨーロッパ、イスラム、東アジアなどの様々な地域から多くの人々が来訪した。<sup>④</sup>

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語 群]

- |                |                |
|----------------|----------------|
| A マヒンダ         | B パーラ          |
| C トプラ          | D ヴァーカータカ      |
| E パータリプトラ      | F ボンベイ         |
| G シンハラ         | H ドラヴィダ        |
| I ヴィジャヤナガル     | J ムーア          |
| K シャンデルナゴル     | L サムドラグプタ      |
| M マドラス         | N シュンガ         |
| O チャンドラグプタ 1 世 | P ヴァルダナ        |
| Q マトゥラー        | R チャンドラグプタ 2 世 |
| S セーナ          | T シュードラ        |
| U ヴァルダマーナ      | V プルシャプラ       |
| W マイソール        | X サータヴァーハナ     |



問 2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各問の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、この時代にマウリヤ朝に征服されなかったインド南端の王朝で、マドゥライに首都をおいて交易で栄え、独自のタミル文化が発展したのは、次のうちどれか。

[選択肢]

- A パッラヴァ朝                      B チャールキヤ朝                      C チョーラ朝  
D パンディヤ朝                      E プラティーハール朝

(イ) 下線部㉙に関して、サンスクリット文学に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

[選択肢]

- A グプタ朝時代に、太陽などの自然を神格化し、その神々に捧げた賛歌集である『リグ = ヴェーダ』が編纂された。  
B グプタ朝の宮廷詩人であったカーリダーサの代表作品として、『シャクンタラー』があげられる。  
C 4世紀ごろ現在の形にまとめられた叙事詩『マハーバーラタ』の主題は、コーサラ国の王子の冒険である。  
D 4世紀ごろ現在の形にまとめられた、『ラーマーヤナ』は、北インドの部族の間で勃発した18日間にわたる戦争物語が中核となっている叙事詩であり、ヴァールミーキの作品であると伝えられている。  
E 『パンチャタントラ』はダンディンによって作られたインドの説話集であり、世界最古の児童向け文学書とされている。

(ウ) 下線部㉔)に関して、エフタルに関する次の記述のうち正しいものはどれか。

[選択肢]

- A ササン朝ペルシャと国境を接し、ササン朝の王位継承争いに介入するなどしたが、484年にササン朝軍に敗れて領土を失い、衰退した。
- B 6世紀半ば過ぎ、突厥とササン朝に挟撃されて滅亡した。
- C ミヒラクラ王は、仏教を厚く保護し、ゾロアスター教を弾圧した。
- D 北魏、晋および西魏に遣使を送り朝貢を行った。
- E 柔然と国境を接し、6世紀に高車とともに柔然を滅ぼした。

(エ) 下線部㉕)に関して、これらの仏教遺跡のうち、2001年3月にアフガニスタンのターリバーン政権がイスラームの偶像崇拜禁止の規定に反しているとしてバーミアンの大仏(磨崖仏)を破壊してしまった。その時のターリバーン政権の最高指導者は誰か。

[選択肢]

- A オマル師
- B ビン=ラーディン
- C ザルカーウィー
- D アフマディネジャド
- E サダム=フセイン

(オ) 下線部㉖)に関して、モロッコ出身のイスラーム教徒の旅行家は14世紀にこの王国を訪問し、『三大陸周遊記』を口述した。この人物は誰か。

[選択肢]

- A ウマル=ハイヤーム
- B イブン=シーナー
- C イブン=バットウータ
- D イブン=ハルドゥーン
- E イブン=ジュバイル

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

18世紀後半から19世紀にかけて資本主義や科学技術の発展を背景として「世界の一体化」がすすんでいくなかで、各国共通の課題を国家間の協力により解決しようという動きがみられるようになった。

19世紀のヨーロッパでは、経済等の国境を越えた交流が深まった結果、実務レベルでの国家間の協力関係が進展し、多数の国際会議が開かれるようになった。この時期に開催された国際会議は、政府間・民間含めて350以上にのぼるといわれる。会議における国家間の合意は、多数国間条約として明文化された。

ウィーン体制崩壊をもたらした ① 以降、ヨーロッパでは戦争が頻発するようになった。このような戦争が行われたのちには、戦後処理のために国際会議が開催され、その際に平和条約(講和条約)というかたちで多数国間条約が締結された。平和条約は、戦後の国境線、領土問題の処理についての当事国の合意を明文化するものである。こうした平和条約としては ① 後のパリ条約(1856年)、ロシア＝トルコ戦争後のサン＝ステファノ条約およびこの内容を変更するベルリン条約(1878年)<sup>⑦</sup>などがある。

19世紀後半以降のヨーロッパでは、専門的・行政的分野において各国が共通にかかえる問題について定期的に国際会議を開いて討議し、問題の解決をはかろうという動きが活発化した。このように特定の問題について定期的に開かれる国際会議とそれを助ける事務局を総称して、国際行政連合と呼ぶ。このような国際行政連合として19世紀後半に設立されたものには、② などがある。

医療・衛生分野においても国際協力が一定程度すすんでいった。代表的なものとしては、コレラ等の感染症の世界的大流行(パンデミック)に対処するために開催された国際衛生会議がある。コレラなどの伝染病は、もともとは風土病であるが、戦争や交易、文明の拡大などにより、人ともものが動くことによって、他の地域へと伝播し、免疫をもたない人々に感染し、世界的流行をひきおこしてきた。インドの風土病であったコレラは、ヨーロッパでは1817年に突然発生した。このとき以来、コレラは19世紀中に6次にわたる大流行(パンデミック)をくりかえし、人々を恐怖におとしいれた。コレラが世界的に大流行した要因としては、

交通の発達により、移民などの植民地と本国との間の移動が急増したことや、蒸気船航路の開発、スエズ運河の開通によりイスラム教徒によるメッカへの巡礼がこのころ急増した<sup>㉗</sup>ことなどが考えられる。コレラなどの世界規模の感染症流行の防止は、一国単位の対応では対処しきれないこと、とりわけ検疫などにより必要以上に自由貿易を阻害しないよう、各国の対応措置の統一を必要とすることから、19世紀には、対応措置の標準化を目的として、国際衛生会議がたびたび開催された。もっとも、コレラ抑止が可能となるのは、③が1883年に病原体となるコレラ菌を発見し、疫病が細菌によってひきおこされることが明らかにされ、予防・治療法が確立されてからであり、こうした会議の実効性は必ずしも大きくはなかった。しかしパンデミックへの対応のために国際協調の努力がなされたことの意義は大きい。

国家間協力ではないが、共通の問題を民間レベルの国際協力で解決していこうという機運が生まれたのもこの時期である。頻発し激化する戦争の惨禍をまえに、傷病兵の手当てに関する国際協力・組織化が民間人のイニシアチブで始められた。①の際に看護活動を行ったイギリスのナイティンゲールに感銘を受け、自身も④の悲惨な状況を目の当たりにして、スイスの実業家デュナンは、敵味方なく傷病兵の手当てをする赤十字国際委員会(国際赤十字社)を組織した。社会主義者の国際組織としては、1864年に⑤などが創設された。

恒常的な国際組織ではないが、1899年、1907年の2回にわたってオランダのハーグでひらかれた万国平和会議<sup>㉘</sup>(ハーグ国際平和会議)は、平和への国際的取り組みの先駆けとして重要である。

このように19世紀の段階では、恒常的な国際組織を設置するまでには至らなかったが、国家をこえた協力関係が様々な分野で進展したことは注目に値する。事務局・理事会などを具備した恒常的な国際組織を国際社会が持つには、第一次世界大戦という悲劇の経験をし、国際連盟<sup>㉙</sup>が設立されるのを待たねばならなかった。

問 1 文中の空欄①～⑤のそれぞれにもっとも適切と思われる語句を下記の語群から一つずつ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

[語 群]

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| A パストゥール         | B イタリア統一戦争     |
| C プロイセン＝オーストリア戦争 | D 国際労働者協会      |
| E イタリア＝エチオピア戦争   | F 第2インターナショナル  |
| G 二月革命           | H イタリア＝トルコ戦争   |
| I 労働代表委員会        | J プロイセン＝フランス戦争 |
| K 南北戦争           | L 世界労働者同盟      |
| M 万国郵便連合         | N クリミア戦争       |
| O ベッセマー          | P 世界保健機関       |
| Q コッホ            | R サヴィニー        |
| S 全欧安全保障協力会議     | T ジェンナー        |
| U メンデル           | V 国際労働機関       |
| W フレミング          | X アメリカ＝メキシコ戦争  |

問 2 文中の下線部㉗～㉙に関して、下記の間(ア)～(オ)に答えなさい。解答は各間の選択肢の中からもっとも適切と思われるものを一つ選び、その記号を解答欄にマークしなさい。

(ア) 下線部㉗に関して、ベルリン条約における変更点は何か。

[選択肢]

- A ロシアにボスニア・ヘルツェゴヴィナの行政権が認められた。
- B アルバニアの独立が認められた。
- C ブルガリアの領土が縮小された。
- D ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立が認められた。
- E イギリスがキプロス島の統治権を失った。

(イ) 下線部㉑に関して、コレラのパンデミックを受けて、イギリスで1848年にとられた国内法上の措置はどれか。

[選択肢]

- A 公衆衛生法制定      B 航海法廃止      C 穀物法廃止  
D 工場法制定      E 審査法廃止

(ウ) 下線部㉒に関して、1875年、エジプトは国家財政が破綻寸前であったことから、スエズ運河の持株をイギリスに売却せざるをえなかったが、このときのイギリスの首相は誰か。

[選択肢]

- A グラッドストーン      B レセップス      C チェンバレン  
D グレイ      E ディズレーリ

(エ) 下線部㉓に関して、万国平和会議の開催を発議したのは誰か。

[選択肢]

- A ニコライ2世      B ヴィクトリア女王  
C ヴィルヘルム2世      D アレクサンドル3世  
E クレマンソー

(オ) 下線部㉔に関して、国際連盟のもとで設置された組織はどれか。

[選択肢]

- A 国際通貨基金      B 常設仲裁裁判所  
C 世界貿易機関      D 世界食糧計画  
E 常設国際司法裁判所